



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 138 July. 1. 2014

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



展示会場



懸垂下降



大盛況の第2回夏山フェスティバル パネルディスカッション (左より尾上、谷垣、岩崎、赤沼の各氏)

目次

○平成26年度支部通常総会 H25年度事業報告・決算報告 H26年度事業計画・予算 H26年度組織図・役員	佐野忠則	1	○同好会コーナー	山中光子 村中征也	14
○第2回夏山フェスティバル報告	毛利邦男	8	○支部友コーナー	酒井 広	15
○春の二つのボランティア登山	前田隆久	10	○リレーエッセイ ③	鈴木常夫	16
○「第14回東海岳人写真展」報告	井上寛之	11	○東海支部の蔵書からの一冊②	石田文男	17
○山桜を鑑賞する会	和田豊司	12	○委員会報告 亀の会	加藤守彦	18
○山岳遭難を回避する心得	西山秀夫	13	○会務報告	毛利邦男	19
			○会員異動 (ルーム日誌)	酒井 広	22
			○INFORMATION		
			○編集後記	星 一男	24

平成26年度支部通常総会

総務委員長 佐野忠則

平成26年度支部通常総会

5月17日(土)平成26年度東海支部通常総会が東海支部に隣接する高砂殿で開催された。今年の総会は愛知県山岳連盟会長の安藤武典氏を来賓としてお招きした。



総会風景

定刻の午後5時から佐野総務委員長の司会で総会が始まった。最初に小川支部長から以下の挨拶があった。東海支部は、2011年に50周年を迎え、それを契機に①高齢化対応(若返り)、②組織の改革、③公益的事業の拡大に対処するとともに会員の増強を図って来た。その結果、支部員数も325名となり、32支部中で最大で最も活発な支部となっている。今年度は「山岳遭難事故の防止」と「自立した登山者の育成」を支部の重点課題として掲げ、取り組みたいと考えており、各委員会においても積極的に検討していただきたい。

来賓の紹介の後、審議に入った。小川支部長に議長委嘱の後、定足数の確認では総務委員長からの「支部規約19条1項により会員数の1/2以上により議決することができるとなっております。現在の会員数325名であり、よって定足数は163名となります。出席者40名、委任状138名合計178名となりますので総会は成立します」の報告により、議事に入った。

第一号議案として柴田副支部長から平成25年度の事業報告と、市川会計より決算報告が行なわれ、野呂監事から全て適正であるとの会計監査報告の後、拍手をもって承認可決された。引き続き第二号議案として平成26年度事業計画を柴田副支部長が、予算案を市川会計が行ない、拍手を持って承認された。続いて組織図で



議長の小川支部長

は従来の「山行委員会」の下にあった「第一山行グループ」と「亀の会」がそれぞれ「山行委員会」と「亀の会」として独立する案が示された。役員については本年度が役員改選の年であり、和田副支部長が退任し、高橋玲司氏を新たに副支部長に指名

する件、及び以下の各委員会の委員長変更案が柴田副支部長から提示された。「山行委員会」に石田文男氏、「亀の会」に加藤守彦氏、「事業企画委員会」に毛利邦男氏、「青年部」に梶浦昌巳氏、「登山教室委員会」に鈴木慎吾氏、「海外登山委員会」に高橋玲司氏。以上の組織図及び役員変更案が拍手をもって承認可決された。

その後、佐野総務委員長から国民の祝日「山の日」の制定に関する祝日法の改正については5月23日の参議院本会議において可決成立の見込みであることが報告された。

以上で議事を終了した。

来賓挨拶

続いて来賓挨拶で愛知県山岳連盟会長の安藤武典氏より、最近の登山ブームの中で我々のような組織登山者ではなく、未組織登山者の事故が多くなっている。三重県山岳連盟が鈴鹿の藤原岳、御在所岳などで取った1,200名のアンケートでは49%が愛知県、22%が三重県、8%が岐阜県からの来訪者となっていて、75%が山岳会、サークル等に入っていないとの結果であった。そのような中で我々のような山岳団体はフリーの人に技術を伝えていかなければならない。東海支部の皆さんも登山知識を得る機会の少ない人たちに支部の活動を通して伝えていただきたい。東海支部は高度な実績があり、先ほどの事業計画を安全に遂行する中で、今後も登山界をリードして戴きたい。

第12次インドヒマラヤ登山隊壮行会

続いて6月15日に出発が予定されている東海支部第12次インドヒマラヤ登山隊の壮行会が開かれた。

最初に小川支部長から星隊長率いる今回の登山隊は、1988年に始まり23年の間、継続しているインドヒマラヤ登山であり、これまでの登山隊は、中高年の隊員の登山も可能となるタクティクスの研究など成果を挙げて来た。今回は、青年隊員も参加するので、遠征の知識・技術を引き継いでいただきたいとの挨拶があった。

星隊長からは一昨年の11次隊に続いて実行を決意した経緯と、配布された資料により概要説明が行われた。

星隊長からの隊員紹介では、鈴木美代隊員は現在、千葉県在住で高所登山のベテランで登攀隊長を務める件と、土屋昌代隊員はこの時間は訓練中で後ほど参加するが、探検的な山を目指している。などの紹介があった。また、本日来賓として出席の安藤会長のご支援で愛知県山岳連盟の後援の承認をいただいたとの紹介があった。続いて支部長から国旗、支部旗授与の後、尾上常任評議員から以下の激励の言葉が述べられた。



星隊長の挨拶

難易度はともかく、継続が重要と認識しており、12回は意義がある。インドヒマラヤの山はマイナーであるとのとらえ方はあるが、難易度はかなり高いと評価している。メリットはアプローチが短く、費用も掛からない点から、日本の登山家の目をもっと向いても良い。継続することにより新たな魅力を見出し、若者のターゲットになることを期待したい。ここまで継続できたのは鈴木常夫さんの力であり、感謝している。それを引き継いだ星隊長と二人の女性は素晴らしいメンバーであり期待している。

以上で壮行会は閉会となった。

登山隊概要（抜粋）

1. 名称
公益社団法人日本山岳会東海支部
第12次インドヒマラヤ登山隊2014
2. 目的
 - 1) 6090m無名峰全員登頂
 - 2) バラシグリ氷河周辺の地域研究調査
3. 構成
登山隊(3名)：隊長12421星一男、登攀隊長11453鈴木美代、隊員15128土屋昌代(青年部)、インド側8名
4. 期間 2014年6月15日～7月18日
5. 経費総額204万円
6. 環境保全
 - 1) IMF(インド登山財団)の環境保全規約を遵守する。
 - 2) 登山期間中の環境保全に留意した装備、食糧計画を実施する。
7. 健康管理
 - 1) 中高年に対応した登山計画を立案する。
 - 2) パルスオキシメーターによる高所順化測定を行う。
 - 3) 酸素ボンベによる高所障害の応急処置を行なう。
8. 救助体制
 - 1) 救助専用の装備、食料、医薬品を配置する。
 - 2) ヒマチャル・プラデッシュ州立マナリ登山学校山岳救助隊へ救助要請を行なう。

懇親会

18時40分からは、場所を支部ルームに移し、新任の高橋副支部長の挨拶・乾杯の音頭で懇親会は始まり、途中から訓練から戻ったインドヒマラヤ隊の土屋隊員が加わり大いに盛り上がり、閉会となった。



高橋副支部長の乾杯の音頭

平成25年度事業報告

期 日	内 容	担 当
I 登山振興事業(公益目的事業1)		
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業		
毎月第3土曜日 3月25日～30日	猿投の森 自然観察会 「第14回東海岳人写真展」開催	猿投の森づくりの会 写真展委員会
(2) 児童・青少年の育成事業		
4月13～14日	知的発達障害者支援登山、SON愛知と協働 水晶岳(鈴鹿)	ボランティア委員会
9月28・29日	御在所フェスティバル(ゴザフェス)	青年部
10月19日	親と子のふれあい登山教室 一尾高山 雨天中止	ボランティア委員会
11月9日	幼稚園児森林体験「森の幼稚園」	猿投の森づくりの会
(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
4月3日	中日文化センター登山教室 開講 (年2期開催 1期6ヶ月)	登山教室委員会
4月4日	朝日加チャ-春期登山教室開講	登山教室委員会
4月6日	NHK文化センター春期登山教室 開講	登山教室委員会
4月21日	中日文化センター山ガール登山教室 開講	登山教室委員会
5月	登山教室テキスト改訂	登山教室委員会
6月29日～30日	夏山フェスタへの協力	夏山フェスタ実行委員会
10月	中日文化・朝日加チャ-・NHK文化 各センター秋期登山教室 開講	登山教室委員会
(4) 事故防止事業		
5月～3月	読図山行 計10回実施	図書委員会
9月	チェンソー慣熟訓練・安全教育	猿投の森づくりの会
10月1日	山行計画の携帯電話による受付開始	遭難対策委員会 他
2月13日	緊急アピール 遭難事故多発 合同集会	遭難対策委員会 他
(5) 山岳環境保全事業		
通年	猿投の森及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
通年	OSU山桜コース整備キックオフ	猿投の森づくりの会
毎月2回	定例作業	猿投の森づくりの会
7月6日～7日	全国自然保護集会(立山)	自然保護委員会
7月28日～29日	自然観察山行、霧ヶ峰、「シカの食害の現地視察」	自然保護委員会
9月1日	伊吹山清掃登山 HAT-Jとの共催	自然保護委員会
10月5日～6日	森の勉強会(関西・京都・東海共催)、六甲の森と草原について	自然保護委員会
11月23日(第4土曜日)	猿投の森 法人会員デー	猿投の森づくりの会
(6) 国際交流事業		
8月16日～21日	日中韓学生交流登山隊の派遣(日本)	青年部
(7) その他目的を達成するための事業		
5月19日	春のブラインド登山(松尾寺山)	ボランティア委員会
10月26日	森の音楽祭	森の音楽祭実行委員会
11月3日	秋のブラインド登山 伊吹山	ボランティア委員会
II 山岳研究調査事業(公益目的事業2)		
通年	支部蔵書管理	図書委員会
III 山岳環境保全事業(公益目的事業3)		
4月15日	ギフチョウ成虫調査	猿投の森づくりの会
5・6月	猿投の森の動物写真集の刊行	自然保護委員会・猿投の森づくりの会
2. 共益事業		
通年	支部山行	第1山行グループ
通年	毎月の定例山行の実施	亀の会
通年	各種同好会が企画する各種山行	同好会
通年	毎月の定例山行の実施	青年部
随時	支部友新人山行	支部友委員会
随時	指導研修会の実施、岳連主催研修会などへの派遣	青年部
随時	合宿訓練	青年部
1月11日(土)	支部新年懇親会(高砂殿)	総務委員会
その他		
支部報	年4回発行 No.133(4月) No.134(7月) No.135(10月) No.136(1月)	支部ガイド 7月
常務委員会	毎月第4水曜日	支部長・副支部長会議 毎月第3週(曜日不定期)
支部評議員会	25年4月22日	

平成25年度 決算報告

(1) 一般会計

(金額単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
24年度からの繰越金	1,821,906	1,821,906	支部報発行費	500,000	577,630
支部会費	1,200,000	1,208,000	支部ガイド発行費	250,000	253,000
支部報・ガイド広告料	235,000	215,000	文書印刷費	50,000	66,840
本部からの支部助成金	850,000	820,000	コピー機リース費	200,000	297,012
本部(ユースクラブ)助成金	—	207,940	青年部登山用具購入	—	207,940
登山教室講習収益	800,000	1,132,320	事務用品・消耗品費	50,000	63,571
書籍売上げ	50,000	52,000	通信費(Tel・IN)	160,000	189,134
その他事業収益(中日電子版)	10,000	45,000	通信費(郵送)	350,000	388,194
委員会残金繰入	—	156,412	行事運営費(新年会他)	100,000	65,000
利息	—	1,203	会議費	10,000	13,345
旧支部友会からの繰入	353,936	353,936	団体加盟費	10,000	10,000
梶田様からの提供品販売収益	—	71,670	慶弔費	30,000	0
寄付	—	300,000	委員会費用	580,000	560,000
			登山教室テキスト代	400,000	367,920
			ルーム賃借料	720,000	740,568
			事業積立金	500,000	500,000
			チャレンジ基金	390,210	390,210
			予備費	1,020,632	581,360
			26年度への繰越金	—	1,113,663
収入の部合計	5,320,842	6,385,387	支出の部合計	5,320,842	6,385,387

(2) 事業積立金

収入の部		支出の部	
24年度からの繰越金	1,832,997	26年度への繰越金	2,332,997
一般会計から繰入	500,000		
収入の部合計	2,332,997	支出の部合計	2,332,997

(3) 遭難対策初動基金

収入		支出	
24年度からの繰越金	2,000,000	26年度への繰越金	2,000,000
収入の部合計	2,000,000	支出の部合計	2,000,000


(4) チャレンジ基金

収入		支出	
24年度からの繰越金	1,109,790	26年度への繰越金	1,500,000
一般会計から繰入れ	390,210		
収入の部合計	1,500,000	支出の部合計	1,500,000

平成26年4月10日

監査の結果、平成25年度の会計は適正に処理されていることを認めます。

監事

中世古蓮子 

監事

野呂邦彦 

平成26年度事業計画

期 日	内 容	担 当
1.公益目的事業		
(1)登山に関する文化・学術の振興事業		
4月5日	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
7月19日	夏の山野草と虫たちの観察会	猿投の森づくりの会
9月20日	秋の山野草観察会	猿投の森づくりの会
(2)児童・青少年の育成事業		
4月5～6日	スペシャルオリンピックス日本・愛知との登山 朝明茶屋をベースに(鈴鹿)	ボランティア委員会
9月(未定)	御在所フェスティバル	青年部
10月18日	親と子のふれあい登山教室(尾高山)	ボランティア委員会
11月8日	幼稚園児森林体験「森の幼稚園」 猿投の森	猿投の森づくりの会
(3)スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
4月2日	中日文化センター登山教室 開講(年2期開催 1期6ヶ月)	登山教室委員会
4月3日	朝日カルチャー春期登山教室開講	登山教室委員会
4月5日	NHK文化センター春期登山教室 開講	登山教室委員会
4月9日	中日文化センター山ガール登山教室 開講	登山教室委員会
5月11日	春のブラインド登山	ボランティア委員会
6月7～8日	夏山フェスタ への協力	夏山フェスタ実行委員会
10月	中日文化・朝日カルチャー・NHK文化 各センター秋期登山教室 開講	登山教室委員会
11月	秋のブラインド登山	ボランティア委員会
5月、8月、10月	合宿訓練	青年部
(4)事故防止事業		
5月～3月	読図山行 計10回実施	図書委員会
9月	チェンソー慣熟訓練	猿投の森づくりの会
適宜	遭難予防講習会 山岳救助訓練などの開催補助	遭難対策委員会・山行委員会・青年部
(5)山岳環境保全事業		
通年	猿投の森及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
毎月第1土第3火	OSU山桜フィールド整備	猿投の森づくりの会
毎月第4土曜日	なごや環境大学(下期未定)	猿投の森づくりの会
通年	定点カメラによる猿投の森哺乳動物の継続調査	自然保護委員会
4月～10月	両棲類の生息調査	自然保護委員会
7月12～13日	御嶽崩壊地及び赤沢自然休養林の自然観察会	自然保護委員会
11月8～9日	第18回森の勉強会・猿投の森他(関西・京都・東海共催)	自然保護委員会
11月22日(第4土曜日)	猿投の森づくりの会 法人会員デー	猿投の森づくりの会
(6)国際交流事業		
6月15日～7月18日	第12次インドヒマラヤ登山隊	インドヒマラヤ登山隊
8月	日中韓学生交流登山隊の派遣(韓国)	青年部
(7)その他目的を達成するための事業		
10月25日	森の音楽祭	森の音楽祭実行委員会
2.公益目的事業		
5月17日	支部通常総会	総務委員会
6月28～29日	上高地 青年部ミーティング	青年部
8月22～24日	支部友夏山山行 八ヶ岳	支部友会
8月30～31日	支部友夏山山行 立山	支部友会
偶数月	支部友集会	支部友会
1月17日	支部新年懇親会(高砂殿)	総務委員会
検討中	支部友会員向け登山教室の開催	支部友会
検討中	ミニ写真展	写真展実行委員会

平成26年度予算

(1) 一般会計

[金額単位：円]

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越金	1,113,663	支部報発行費	500,000
支部会費	1,200,000	支部ガイド発行費	250,000
支部報・ガイド広告料	235,000	文書印刷費	50,000
本部からの支部助成金	820,000	コピー機リース費	200,000
登山教室講習収益	900,000	事務用品・消耗品費	50,000
書籍売上げ	50,000	通信費(Tel・IN)	160,000
その他事業収益	10,000	通信費(郵送費)	350,000
		行事運営費(総会,新年会他)	100,000
		会議費	10,000
		団体加盟費	10,000
		慶弔費	30,000
		委員会費用	490,000
		ルーム賃借料	740,000
		事業積立金	667,003
		予備費	721,660
収入の部合計	4,328,663	支出の部合計	4,328,663

(2) 事業積立金

収入の部		支出の部	
25年度からの繰越金	2,332,997	次期への繰越金	3,000,000
一般会計から繰入	667,003		
収入の部合計	3,000,000	支出の部合計	3,000,000

(3) 遭難対策初動基金

収入の部		支出の部	
25年度からの繰越金	2,000,000	対策初動費用	2,000,000
収入の部合計	2,000,000	支出の部合計	2,000,000

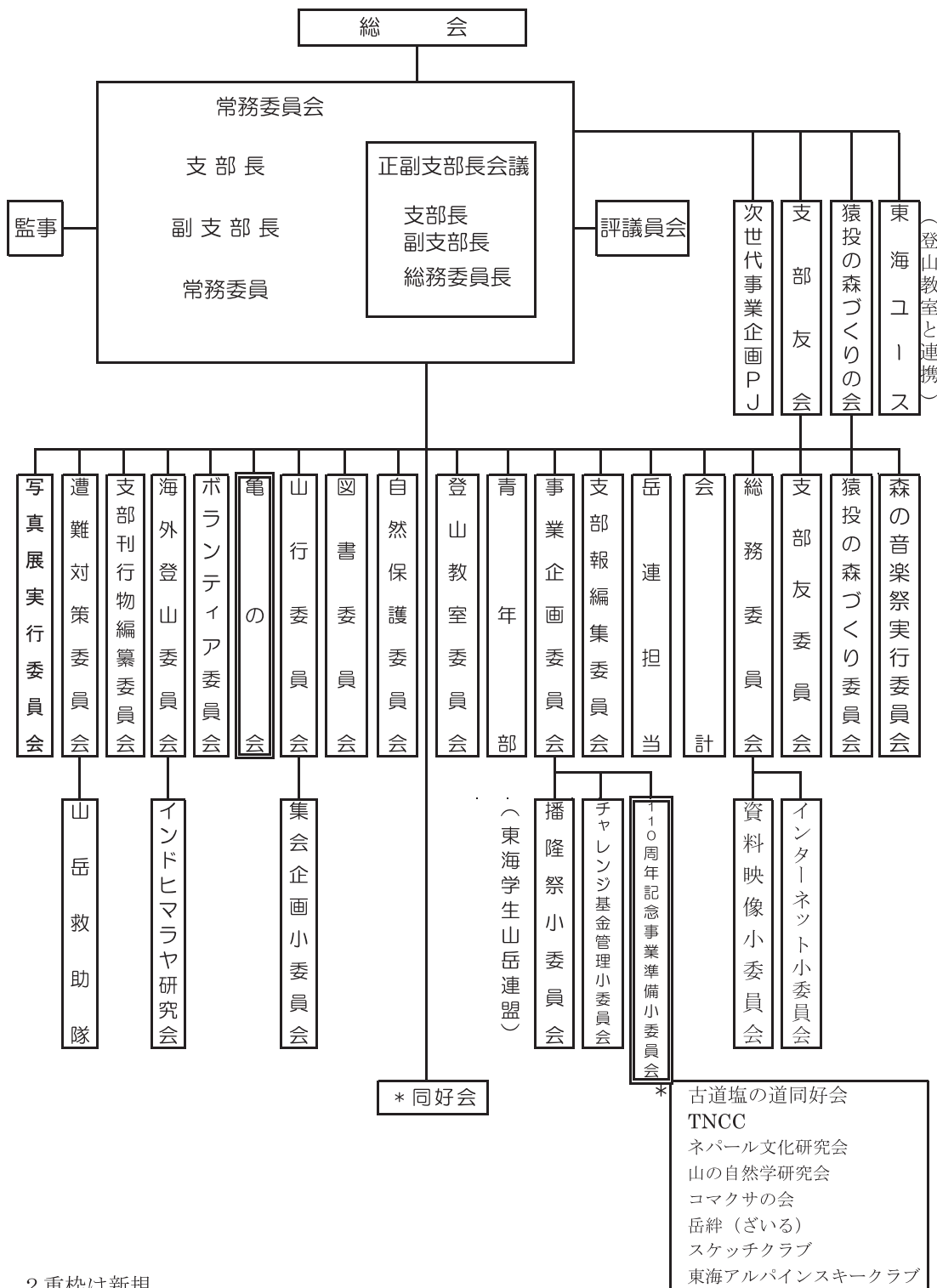
(4) チャレンジ基金

収入の部		支出の部	
25年度からの繰越金	1,500,000	対象者称揚	1,500,000
収入の部合計	1,500,000	支出の部合計	1,500,000

- ① 支部会費は支部員330名、支部友会員50名を想定
- ② 本部からの支部助成金は、支部員約330名を想定。
- ③ 委員会費用は、次の16委員会からの申し出による。

・支部友委員会	70,000	・山行委員会	30,000
・総務委員会	50,000	・猿投の森づくりの会	-
・自然保護委員会	60,000	・青年部	100,000
・登山教室委員会	10,000	・支部報編集委員会	30,000
・海外登山委員会	-	・インターネット委員会	-
・ボランティア委員会	80,000	・遭難対策委員会	50,000
・図書委員会	10,000	・亀の会	-
・次世代企画プロジェクト	-	・写真展実行委員会	20,000
- ④ 団体加盟費は、愛知県山岳連盟の年会費。

平成26年度組織図



2重枠は新規

- 山行委員会の中の山の会を委員会組織とし第一山行グループを廃止する。
- 日本山岳会の110周年記念事業に連動した記念事業を東海支部でも計画する必要があるので、事業企画委員会の中に110周年記念事業準備小委員会を設置する。

平成 26 年度 役員

名誉支部員	: 石原國利						
支部長	: 小川 務						
副支部長	: 柴田清康	山田明美	高橋玲司				
監事	: 中世古直子	野呂邦彦					
常任評議員	: 尾上 昇						
評議員	: 石川富康	大口瑛司	杉田 博	長坂 博	箕浦靖夫		
	横田明信	鈴木常夫	梶田民雄	橋村一豊			

常務委員会	委員長	常務委員会	委員長
猿投の森づくりの会	: 和田豊司 (代表)	青年部	: 梶浦昌巳
次世代事業企画 P J	: 橋村一豊	登山教室委員会	: 鈴木慎吾
東海ユース	: 山田明美 (代表)	自然保護委員会	: 南川陸夫
支部友委員会	: 尾上 昇	図書委員会	: 石田文男
総務委員会	: 佐野忠則	海外登山委員会	: 高橋玲司
会計	: 市川義行	ボランティア委員会	: 前田隆久
岳連担当	: 市川義行	支部刊行物編纂委員会	: 星 一男
山行委員会	: 石田文男	遭難対策委員会	: 野呂邦彦
亀の会	: 加藤守彦	写真展実行委員会	: 井上寛之
支部報編集委員会	: 星 一男	森の音楽祭実行委員会	: 箕浦靖夫
事業企画委員会	: 毛利邦男	□ は前年からの変更者。枠なしは重任	

第 2 回夏山フェスティバル開催

夏山フェスタ実行委員会事務局 毛利邦男

「山の日」祝日法案制定を受け、「山の恵みについて考えよう」と題してさる6月7日と8日の2日間に亘り、「第2回 夏山フェスタ」が名古屋ウインクあいちの5階と8階にて開催されました。当フェスタは第1回に引き続き「中部経済新聞社」が主催、尾上 昇 J A C 前会長が実行委員長で開催されました。こうした経緯から東海支部は、人的支援を含め昨年同様多方面に亘り協力体制を組ませていただきました。前日6日に開かれた前夜祭には、東海支部員の村中さんが主宰する名古屋アルプホルンクラブのホルン演奏と青年部2名による90mの屋上から懸垂下降のアトラクションでフェスタの開催を盛り上げました。

東海支部は、会場では「山のよろず相談コー



大盛況の会場

ナー」を引き受け、来場者からの多くの相談を受けると同時に、支部がバックアップしている4つの登山教室の紹介、支部及び支部友会の活

動の広報にも努めました。お陰様で、今回は支部友会及び青年部へ多くの入会希望の問い合わせがあり大変有意義なイベントとなったことを報告させていただきます。同時に本部が制作した「家族で楽しむ山登り」の冊子を5階と8階の会場で配布し広報に努めたところ、我が東海支部で開いた「山のよろず相談」のコーナーには親子で登る登山教室に対するお問い合わせも多数寄せられました。

8階の主会場には24の山小屋相談コーナーと山岳関連自治体及びメーカー他による50のブースが設置され、昨年の2倍の規模となりました。一方5階では各種セミナーが開催されました。まず7日は、『高山植物を見分けて夏山を楽しもう』と題した大久保氏によるセミナーに始まり、『日本のロングトレイル事情』、日本山岳ガイド協会による5つの公開講座と80歳でエベレスト世界最年長登頂を果たされた三浦雄一郎氏のトークショーなど、計7つのセミナーが開催されました。



三浦雄一郎氏トークショー

8日は立山カルデラ砂防博物館学芸課長の飯田肇氏による『立山連峰の氷河』と題する講演にはじまり、三重県遭難対策委員会委員長居村年男氏による『鈴鹿山系、最近の事故検証』の講演、登山家岩崎元郎氏の『私が登った中部の山々』のトークショーが開催されています。続いて『山の日』の祝日制定を受け、全国『山の日』協議会の谷垣会長による「山の日」制定に至るまでの経緯と山の日の意義についての基調講演が行われ、この後、山を愛する4人（谷垣、岩崎、赤沼、尾上の各氏）による『山を考える』パネルディスカッションが催されました。谷垣会長の「今、山を考える」と題した基調講演では、「山の日」祝日法案が制定され



東海支部のブースを訪れた谷垣氏

るまでの経緯、「山の日」制定の意義、何故8月11日を祝日として選ぶに至ったかの説明などがあり、これを期に、より多くの方が山に親しみ、山のめぐみに感謝する国民運動につなげていきたいと締めくくられました。基調講演を受けての「山の放談会」では、パネラー4人それぞれの「山とのかかわり」についてのお話から始まり、「山の日制定を受けての感想」、「山の日制定の目的と意義」、「山のめぐみとは何か?」、「山のめぐみと相反する問題点」、「山と自然守っていく上でのこれからの取り組み」などについて活発な議論が行われました。

最後に実川欣伸氏による『エベレスト帰国報告』まで5つの盛り沢山のセミナーが開催され、2日間共、ほぼ全部のセミナー会場は満席の参加者で盛況でした。

特に整理券を用意した、三浦さんと岩崎さんのトークショーと『山を考える』パネルディスカッションには定員をはるかに超える入場希望者が訪れ嬉しい悲鳴を上げました。ちなみに、2日間の期間中に来場した参加者は6650人を数え、昨年の50%増となりました。

改めまして、青年部・登山教室運営委員の皆様には多大なご支援、ご協力を賜りましたことをこの場をお借りしまして御礼申し上げます。



2014年、春の二つのボランティア登山

ボランティア委員会委員長 前田隆久

今春に行われた二つのボランティア委員会主催行事を報告する。

■第14回知的発達障がい者支援登山

「山岳会と一緒に登山2014」

4月5日(土)・6日(日)開催



アスリートとその支援者の皆さん 朝明茶屋にて

例年と同じく三重県菰野町朝明茶屋をベースに、SON愛知からアスリート(知的発達障がい者)9名、その家族9名、SON愛知サポーター8名、東海支部から31名(内、東海学生連盟から12名)、支部以外から1名の合計58名で開催された。

初日は、恒例の火起こしから始まる飯盒炊さんでのカレー作り、夜はキャンプファイヤーで懇親を図る。翌日は目的である登山に挑戦した。今回は、伊勢谷からブナ清水、青岳、根の平峠経由の周回コースを計画した。しかし、生憎の天気朝のうちこそ曇りあったが、ブナ清水に向かう途中から季節外れの雪に見舞われ、残念ながら安全を考慮して撤退した。

ところが、雪の中の登山はアスリート達の間でも貴重な経験となり、SON愛知側からも「アスリートに、いい経験をさせられた」という評価をいただいた。開催日については、来年以降の課題として残る。



季節はずれの雪の中を下山する

■第11回視覚障がい者支援登山

「春のブラインド登山」

5月11日(日)開催



ブラインド登山の皆さん 蕪山山頂にて

今回は9名の視覚障がい者に対して、東海支部から22名(内、東海学生連盟から3名)、支部以外から4名のサポーター、合計35名で開催された。行き先は奥美濃の蕪山(1069m)である。

まばゆいばかりの新緑の中、21世紀の森・連帯の丘公園からの尾根道往復コースを、視覚障がい者を中心に9つのグループに分かれ登山した。視覚障がい者の皆さんには、新緑の登山道の爽やかさを、吹いてくる風や匂いで感じていただけたことと思う。頂上からは、御岳、乗鞍、白山・・・360度の展望が開け、サポーターにとっても楽しい山行であった。

今回は、視覚障がい者とサポーターのそれぞれに、初参加の方がいらっした。これからもできるだけ広くいろいろな方に参加していただき、多くの方にブラインド登山の楽しさと、意義を体験していただけたらと思っている。

東海支部の特色ある活動としてのボランティア登山活動、これからも発展させていきたい。支部員皆様のご理解とご協力を宜しく願っています。



新緑の蕪山での下山の様子

「第14回東海岳人写真展」開催報告

写真展実行委員会委員長 井上寛之

第14回東海岳人写真展「山と自然のパフォーマンス」は、3月25日から30日までの6日間、名古屋市民ギャラリー栄7階の展示場で開催した。開催にあたっては前回同様、中日新聞社より共催、名古屋市教育委員会、中部日本放送から後援を頂いたが、今回からは愛知県教育委員会、愛知県、名古屋市からも開催の趣旨に理解をえて後援を頂いた。

展示作品は、53人の方による78点の作品(撮影地海外40点、国内38点)であった。

展示された写真は、海外ではネパール、チベット、モンゴルで撮影された写真が比較的多数であったが、そのほかにも

スイスアルプス、北米、南米など広く全世界に渡り、国内でも北は北海道から南は滋賀県までで撮影された多彩な写真が展示され、東海支部員の活躍の場所の広さを窺がわせるものがあった。

また、題材として山の写真が多いなか美しい高山植物や野生動物たちの写真も展示され、来場者の興味をひいていた。

作品出展者の構成は、前回にも出展頂いた方に加え今回初めて応募される方が2割以上あり、次回への発展が期待できるものであった。

そして、皇太子殿下には「黎明の富士」と名づけられた、昨年世界遺産になったばかりの富士山の写真を特別出品賜り、展示することになり皆さんにご覧いただくことが出来た。

開催期間中の来場者は2,243名であり、前回に比べ期間中に祝日がなかつ

たにも関わらず、多数の市民の方に写真を鑑賞していただくことが出来た。



写真展会場



国内外の名峰が見える四季折々の風景—名古屋市中区の市民ギャラリー栄で

農作業の風景や羊の群れなど入びとの暮らしもとらえた。実行委員の杉浦吉治さん(左)は「撮

四季の絶景82点
東海岳人写真展
名古屋で始まる
「第十三回東海岳人写真展」(中日新聞社共催)が、下日、名古屋市中区役所の市民ギャラリー栄で始まった。国内外の名峰が見せる四季の美しさや大自然の雄大さを感じさせる作品が並び、入品は山の絶景に加え、マラヤ隊の参加者の作

場無料、二十五日まで。
日本山岳会東海支部の会員らが八十二点を出品。支部の五十周年を迎えた昨年、多くの海外登山をし、海外で撮影した作品が六割を超えるのが今回の特徴だ。
このうち、インドヒマラヤ隊の参加者の作

写真展開催を伝える新聞記事
(中日新聞2012年3月22日朝刊)

東海支部俳壇

西山秀夫

木曾・大平街道を歩く
熊避けの鉦を叩くや登山口

山岳山頂にて
兀頂や長居をすれば蝸多し

ユキザサの花らしからぬ花が咲く
雉飛んでぶなの若葉を揺らすほど

麦飯を食ふ塩鮭を具に梅干も
蠅たかる緑色した熊の糞

廃村・大平にて
木地師の家の大蔵家を訪問
青葉風木地師の宿の父祖の梁
名山の水を湛えし代田かな

山桜を鑑賞する会

猿投の森づくりの会 代表 和田豊司

猿投山の北西斜面には直径1m程で樹齢200年を越える山桜の巨木が8本、直径7～80cmの準巨木が13本あり、4月の第1週から第2週にかけて一斉に咲き始める。紫色のショウジョウバカマが3月中旬、下旬にはミツバツツジの赤紫の花に続いて、薄黄緑の新緑におおわれ始める山肌に白い桜の花が、島のように咲き誇るのである。

今年は4月12日(土)に山桜を鑑賞する観桜会が開かれた。今年から“なごや環境大学”の共育講座を森づくりの会も受け持つことになり、その受講生が観桜会に参加され支部員の参加も多数あり総勢47名になり、遊歩道をゆっくり観察して頂いた。午後には大須ロータークラブの家族会30名の皆さんが、OSU山桜フィールド(JACの所有地)まで足をのびし春うららの山桜を楽しんで頂くことができた。

瀬戸および猿投山一帯は、江戸から明治にかけて過剰な薪炭採取のためハゲ山となってしまった。明治の後期、愛知県は東京大学に洪水防止と森林の回復のために治山設計を依頼し、当時大学の講師をしていたイタリア人のホフマンが指導にあたった。ハゲ山となった猿投山だが山桜は伐採されずに残っていたのだ。森は回復しイノシシやカモシカが息するまでになってきた。緑豊かな森に春になると日本人の心のふるさとである桜が咲き乱れる。

猿投山一帯の桜は、ほとんど“ヤマザクラ”で、ふだん私達が慣れ親しんでいる“ソメイヨシノ”は数えるほどしかないのだ。古来歌に詠まれた桜はおおかたが山桜だ。ソメイヨシノはオオシマザクラとエドヒガンザクラの



観桜会の参加者

交配によって人が作り上げた栽培種だ。山桜の特徴は赤茶色の新芽(葉)がまず出て、そのあと白い小ぶりの花が一斉に咲く。ソメイヨシノは葉が出る前に、薄ピンク色の花だけが一斉に咲くため華やかだ。ヤマザクラは薄黄緑色の山肌に白い霞がかかったように咲く。

瀬戸のハゲ山の回復や桜の歴史、観察道沿いの植生を学習しながらの観桜会であった。



ヤマザクラの巨木の開花



山岳遭難を回避する心得

西山秀夫

支部員の死亡事故多発が現実となってきた。危険回避に決め手はないが、登山のセオリーはある。

<山岳会は登山を教えない>

支部員になった上はぬるま湯の中の管理された登山では物足りない。手ごたえのある登山を志すのも無理からぬこととは思う。

以前にも書いたことであるが、はっきり言ってあらゆる山岳会は新人に登山を教えるための機関ではないということを知っておきたい。山岳会の行事、運営事務、懇親会などを通じて先輩と接し、相互に信頼できる関係を築いて登山の見識や能力を高めていくものだからだ。日本山岳会会員＝完全な登山者ということではない。

<生涯の山友を探せ>

安全のために、ツアー登山やプロの登山ガイドを雇っていたらいくら金満家でも限界があろう。多数の支部員の中から1人2人の仲間を見つけることこそ支部員になる意義がある。しかも技術が上で物知りなら言うことなしである。

委員会に誘われたら一員になり山行をともにすることである。良い山友(つれ)(=完全な登山者)は保険以上の価値がある。楽しくて安全に人生を送れる。

<単独行を回避しよう>

初心者は単独では山に登らないようにしたい。特に登山道の整備されていない山域はルートファインディングの能力が試される。例えば御在所岳の本谷の場合、一般登山者が不用意に入山すると苦勞するであろう。滝、滝を高巻きするルート、ルートを惑わす勝手な目印、三点支持で足場を確保しながらのクライミング、落石を起こさないように神経を使って登る、詰でのやぶ漕ぎと短い行程の間に次々と難所が出てくる。

<確保―滝の高巻きはとても危険だ>

実は沢登りで最も多い事故は高巻きである。岩登りであれば徹頭徹尾ザイルで確保されるが、沢登りの高巻きの場合機動性を考えて確保しないことが多い。

一般登山道であっても、台高山脈の池木屋山の高滝は昔から転落死亡事故が多く数名を超える。細い踏み跡の上に落ち葉がたまり危険この上ない。落差は50m以上もあるから落ちたらひとたまりもない。己の力量を超えたところに遭難事故はある。確保が必須である。

<ネット上の記録を自分に当てはめない>

ネット上には行きたい山の登山記録が沢山ヒットする。だから自分も登れるというのは山を舐めている。自慢話も多いと思う。何とかなる場合もあるが、きちんと危険を意識して慎重に取り組むことだ。

<登山届けにはルートを明示する>

登山届けは捜索救助する側(警察、自治体、消防団、家族など)の強い要望である。長野県では条例で義務化まで検討されている。違反の場合は過料を科される。

そもそも登山は計画に始まる。しっかりしたリーダーを決めて綿密な計画の下で実施すれば事故は起こりえない。ふらっと、独り、山深くさまよう誘惑もあろうが、きちんと技術を身につけてからにしたい。

<登山中は登山に集中すること>

下山したら、どこそこの蕎麦屋に寄ろうとか、何時に家族で食事の予定なのとか、などと言っていると、分岐点を見落として道に迷ったり、安全なルートを避けて危険な近道を行ったり、明日は大切な会議があるのでピバークはできない、と決断できないまま夜道を下って転落死してしまった事例をいくつも見た。山の中では登山に集中したい。



御池岳登山口にて

同好会コーナー

東海支部会員が有意義なクラブライフを享受するための組織として同好会が発足しています。同好会とは、東海支部会員が同好の士と東海支部の事業目的に沿った多様な活動を通じて有意義なクラブライフを享受しようとする集りで、総務委員長の所定の承認及び常務委員会への設立報告に基づいて登録された会をいいます。同好会は支部の会議室等の施設、設備、支部報及びホームページを利用することができます。東海支部会員なら入会自由であることが前提です。同好会規約及び設立の申込み方法は本年度の支部ガイドに記載してあります。同好会が設立された場合は支部報等で告知します。

古道塩の道同好会

山中光子

ゆったり歩きの（古道塩の道同好会）もついに、愛知県を歩き通した。今年は「いなぶ」の町も異常に雪が多かったが、幸い探索時には、雪も減り車も駐車する事ができた。細い山道が続き、木々の緑を楽しむ事ができる。武田信玄も2万5千程の兵を引き連れて通ったという難所の峠の一つ杣路峠。塩を運んでいる馬の為に途中には馬の水飲み場跡もあり、そこを過ぎると愛知県から長野県に入る。県境を越え峠にた



尹良神社



杣路峠へ

どり着けば大きなブナの木がある。後醍醐天皇の孫の尹良（ゆきよし）親王が水を所望した時、地元の老婆がこのブナの木の前から湧き出る水を差し出したら非常に美味と称赞。地元の根羽村木匠の人々が、峠に尹良（ゆきよし）神社を建て、春と秋に祭事が続いているらしいが、峠は3年程前に訪れた時と違い、林業の機械が各所に点在してすっかり様変わりしていた。杣路峠から根羽村に下るが、道は林業の為に広くなりロマンが無くなってしまっていた。

連絡先

mitsu.k@ae.auone-net.jp

スケッチクラブ

村中征也

白馬の朝焼けと雪形に感激



杉田山荘にて

5月30日、朝4時に駆付けた白馬大橋、眼前に展開する三山のモルゲンロートに息を飲む。

朝食後には、大出の吊り橋から時間を掛けてスケッチする、「暴れ馬」と「子馬」の雪形をしっ

かり描いた。

スケッチクラブの発足から1年、夏・秋・冬・春の自然を描き、「今回は安曇野の残雪を求めて」1泊旅行。池田町の安藤家で昼食、白馬の杉田山荘泊。ホテル・ラネージュ本館夕食でのアルプホルン演奏、山荘での山の歌。絵・酒・お喋り・音楽etc…心を一つにしたスケッチ旅行でした。

会費ゼロで門戸開放、気軽に声を掛けて下さい。

事務局…村中征也・加藤和子・武内喜代子
代 表…杉田博

支部友コーナー

◆支部友委員会では平成26年7月～11月に次の山行を予定している。

7月26日(土)、27日(日)木曾の御岳山(3,067m)
☆☆ リーダー：尾上 昇

8月22日(金)～24日(日)夏山山行
八ヶ岳の天狗岳(2,646m)、硫黄岳(2,760m)
☆☆ リーダー：酒井 広

8月30日(土)、31日(日)夏山山行
立山(3,003m)
☆☆ リーダー：尾上 昇

9月13日(土)木曾の南木曾岳(1,677m)
☆ リーダー：伊藤康信

9月27日(土)若狭の久須夜ヶ岳(619m)
☆ リーダー：酒井 広

9月28日(日)伊那の鬼面山(1,889m)
☆ リーダー：尾上 昇

10月12日(日)飛騨高地の靱糠山(1,744m)
☆ リーダー：伊藤康信

10月18日(土)奥美濃の冠山(1,257m)
☆ リーダー：酒井 広

10月26日(土)奥美濃の小津権現山(1,158m)
☆ リーダー：尾上 昇

11月8日(土)鈴鹿の雨乞岳(1,238m)
☆ リーダー：伊藤康信

11月15日(土)裏木曾の白草山(1,641m)
☆ リーダー：酒井 広

11月29日(土)奥三河の三ツ瀬明神山(1,016m)
☆ リーダー：尾上 昇

山行の申し込みルール

山行の参加対象者：支部友会員、支部友委員会
スタッフ

申し込み方法：申し込み先の希望する山行の
リーダーに申し込む。

締切日：原則山行日 20 日前まで。(締切日を過
ぎての参加空き情報はリーダーに直接問
い合わせ下さい)

詳細は支部友会員宛に同封されている「別紙」
をご覧ください。

◆支部友ミーティングを次のように開催する。

第7回 8月12日(火)19:00～ 支部ルーム
講演：セルフレスキュー・その2
内容：知っておきたい救急法の基礎知識
講師：日本赤十字社 愛知県支部

第8回 10月4日(土)・5日(日)鈴鹿・朝明茶屋
『朝明茶屋ミーティング』 恒例の合宿・集中
登山で会員相互の親睦を深める

第9回 12月10日(水)19:00～
『支部友忘年会』
一年の活動を振り返り新年に備える

支部友会員数

平成26年6月／48名

申込先

尾上 昇	①〒467-0044 名古屋市瑞穂区柏木町 1-24
	②FAX 052-832-3878
	③メールアドレス onoe@onoe.co.jp
酒井 広	①〒487-0006 春日井市石尾台 6-6-4
	②電話/ FAX 0568-92-6137
伊藤 康信	①〒454-0957 名古屋市中川区かの里 1-2302
	②携帯電話 090-2577-8137
	③メールアドレス kobitokaba@mediacat.ne.jp

個人山行も J A C 東海登山届けを！



専用携帯電話

080-2632-3776

リレーエッセイ③

支部友会の思い出

初代支部友会委員長 鈴木常夫

長坂評議委員の「支部友会の思い出」を引き継いで書かせていただきます。

当時、私は湯浅道男支部長の下で副支部長として、設立された支部友会の委員長を兼任することになりましたが、1994年の愛知国体の役員、1988年から始まった中高年ヒマラヤ登山計画の継続などと重複してしまい、一年弱で先輩の長坂 博さんに委員長を押し付ける形になってしまいました。

その後、支部友会は長坂 博さんが、武田康さん、内藤芳夫さん達優秀な方々と共に、10年間支部友会の数々の山行に事故者を一人も出さず運営されたことは周知のところであります。

支部友会設立の経緯、組織、事業内容の変遷、今後の課題などは、支部報131号(2012年10月号)に設立当事者の尾上 昇現常任評議員が適切かつ簡潔に述べています。

■遭難者救助

1995年夏山の鳳凰三山支部友山行では、疲労で動けなくなった登山者を、小屋の依頼で中世古隆司さんの指揮のもと、支部友会員が出勤して救助に当たりました。

■ガイドブック発行

1990年代は、おりしも中高年者の登山ブームの時でもあり、多種多様なガイドブックが出版されていました。支部設立30周年記念として、東海支部らしいガイドブックの発行気運が高まり、編集委員長沖 允人さんとカラコルム遠征仲間の安藤忠夫さんが、まとめ役を引き受けてくれ、1991年に「名古屋からの山なみ」111座が発行されました。今読み直しても、個性あふれる文章が多くあります。

その後、1995年と1996年に「名古屋周辺山旅徹底ガイド」正、続229座が発行されました。安藤忠夫さんを中心に編集されたガイドブックでして、支部員に伍して多くの支部友会員が執筆しています。経験不足の山は何度も登ってより正確を期していました。

高速道路の整備と共にマイカーによる登山も増えてきたのを機会に、登山範囲を広げて「高速道路からのアクセス 東海・北陸の200

秀山」上下223座が2009年に発行されました。西山秀夫さん、星 一男さんが編集委員として、カラー頁を多用した豪華なガイドブックに仕上がっています。これにも多くの支部友会員が執筆しています。

■日本山岳会全国支部懇談会

1996年秋、141名が奥三河「山びこの丘」に集まり、「中高年登山の諸問題」と題してのパネルディスカッションの後、懇親会は上の広場にてバーベキューで大いに盛り上がりました。地元ですので、長坂 博さんが仕切りました。カマドの数も40数台に及び、とても支部員だけでは対応できず、多くの女性支部友会員が会場設営、受付に活躍してくれました。青木周子、増田千恵子、脇田幸子、山中光子さん達です。その後、支部員として活躍されている方達です。

丁度、下の集落で秋祭りの「手筒花火」が奉納されていました。東三河だけで伝承されていて10分近く吹き上がる、豪快な手持ち花火が懇親会に華を添えました。

翌日は奥三河の秀峰三ツ瀬明神山、霊山鳳来寺山の山行で支部懇談会を締めました。



三ツ瀬明神山にて

■40山踏破ラリー

支部設立40周年記念の40山踏破ラリーにも、多くの支部友会員が活躍し、成功裡に終わりました。数が全てとは言いませんが、1995年代から21年続いた支部友会は、大きな事業のたびに、担当者にとって心の支えになったのも事実です。



東海支部の蔵書からの一冊②

図書委員長 石田文男

『日本の名山』(20巻+別巻4)

串田孫一・今井通子・今福龍太編

「山に登る人、山を愛する人を対象に山と山との関わりをさらに一步踏み込んで歴史、地誌、植生、民俗、宗教、山岳紀行、文学などさまざまな角度から考察し日本人の精神風土の核心の一端を照射する・・・各山岳別の名エッセイの集大成」・・・これは『日本の名山』の短冊にある一節である。

岩と雪の山、高山植物と移ろいの展望を求めて行く縦走、また時には滝をやり過ぎながら行く沢登りなど山登りの楽しみ方はさまざままで、そしてどの人も自分の山と目的を秘めて登っているだろう。せつかくその山へ行くんだから、そして同じ時間と同じ費用を捻出して行くのなら知識という間口を広げぬ手は無い。自分の山に深みと酷とを増さぬ手は無いではないか。

読図や本を読むこともその一つであり、昨今見かけるただ登って楽しいだけ、人の企画に乗っかるだけではあまりにももったいないではないか。

ここが先に引用した文の想いであり、本に対峙する姿勢ではないかと思っている。

ここに一つ『槍ヶ岳』から引用しよう。

〈槍ヶ岳の鋭鋒をはじめて見たのはもう何年前になるであろうか。塩尻峠の頂に近い旅館の窓から遠くはるかに、焼岳から穂高に続くやまなみの果てに二等辺三角形の端麗な姿で鋭くそそりたっているのが見えた。(中略)

槍は、山歩きの好きな娘であった私の、終生のあこがれの地点であった。

・・・一生懸命に五万分の一の白地図を槍を中心にして買い求め、寒冷紗で裏打ちをして、2,300メートルの等高線毎にうす茶色の絵の具で塗り重ねていった。徳本峠が2,000メートルの地点で浮かび上がると、自分のすぐ目の前に槍の尖鋒が鮮やかに出現した思いになり、地図の上で梓川の川原から槍沢をつめて3,180メートルの槍が幾度も塗り重ねて濃い茶の色に姿をあらわしたとき、自分がようやく頂上に立てたよううれしさに涙がにじんだ。〉



1997年1月～1998年12月発行
46版変型 並製カバー装平均256頁 博品社

このように今回取上げた22の『日本の名山』には、冒頭文にある日本人の精神風土が滲みでているものばかりである

どの一冊もまずは目次を見て驚く。一山あたり30人前後の名だたる執筆陣でその一節一節は綺羅星のごとくだ。一登山家であれ文筆家であれ一つ一つの山に対峙する精神・姿勢は同じで、その想いが筆となってあらわれたものがここに編纂された。

だから、各冊のページ繰って初めから読むもよし、ぱっと開けたページから拾い読みするもよし、必ずや読者の心を打ち、時として感化さえもしてくる、そして何より山の香りが溢れんばかりだ。

各巻末にある「参考文献」と「執筆者プロフィール」は本好きにはたまらなくありがたいものである。それぞれの執筆文の所収書名と発行年・発行元が分かること。特に発行元名はその装丁に一種独特の雰囲気があって、それぞれの書名からその内容の匂いがしてくる。生年はその執筆時の年齢と登山の時代背景がつかめることで興味深く、合わせて職業・登山の活躍・軌跡・各著作とその初出年月も知る事ができるのはありがたい。そして何よりも持っていない本への食指の動きである。

委員会報告

【亀の会】

このたびの東海支部総会で、「亀の会」は常務委員会直轄の組織になりました。これを機に、「亀の会」について改めて紹介させていただきます。

「亀の会」の基本

「亀のようにゆっくりペースで山歩きを楽しもう」という趣旨で結成しました。現実には、「亀」も「兎」も混在しています。

2008年7月24日に37人の会員により発足。本年7月で設立6年になります。

入会資格は、原則65歳以上。障がい者とサポーターは年齢制限なしです。

「亀の会」の構成（2014年5月現在）

本年5月現在、会員は84歳を筆頭に56人。
年齢別の構成

年齢は4月1日現在（）はサポーター

年齢	人員	男性	女性
84歳～80歳	3 (0)	2	1
79歳～75歳	15 (5)	7	8
74歳～70歳	16 (4)	8	8
69歳～65歳	20 (5)	9	11
65歳未満	2(1)	1	1
合計	56 (15)	27	29

傘寿は通過年齢、目標は米寿

毎年、傘寿（数えの80歳）を迎える方を祝って、記念山行を実施しています。75歳未満の会員にとっては、「傘寿は通過年齢、米寿まで山歩きができる」が目標になっています。

視覚障がい者の会員3名

「亀の会」会員には、視覚障がい者が3名います。全盲2名、弱視1名です。全盲のお二人は、マラソン大会に出場されるタフな方です。視覚障がい者についてご存知ない方は、「視覚障がい者の登山は危険」として避ける傾向にありますが、一緒に登山を体験していただければ「心配ご無用」と判ると思います。



5月の傘寿山行(長老ヶ岳)

「亀の会」の運営理念は、「足し算」

「亀の会」の運営の基本は、「足し算」です。「××ができないから、外す」という引き算の発想でなく、「できない障碍をどう克服するか」に知恵を絞った運営に心がけています。

特に安全登山施策は、試行錯誤の連続です。「まずやってみよう」の姿勢で望んでいます。幸いこの6年、擦りキズ程度の怪我以上の事故は出ていません。主な施策は次の通りです。

- ① ゆっくり歩く。
- ② サポーターを6～5人に1人配置。
- ③ 事故予防10分間講座をバスの中で実施。
- ④ 「山での事故発生時の対応の手引(亀の会編)」の作成と携行。
- ⑤ 「内部疾患に係わる発病の際の救急対策」
持病のある方は、「救急対応時の留意事項(告知事項)メモ」に必要事項を記入し、携行して頂きます。

会員への連絡は、メーリングリストで

メンバー間の連絡は、Eメールのメーリングリストを主体にしています。メールを持たない方へは、個別に連絡担当を決めて連絡するようにしています。

月例山行は、毎月第4木曜日か第3木曜日

月例山行は原則として第4木曜日ですが、第3木曜日に変更することもあります。

最後にお願ひ

サポーターが高齢化しています。若手の方にサポーターとして御支援して頂けたらと願っています。

亀の会委員長 加藤守彦

会 務 報 告

【2014年3月常務委員会】

日時：3月26日（水）19時00分～21時00分

1. 小川支部長挨拶

①4月11日に胆嚢の摘出手術の予定、4月20日頃まで療養必要の為会議に出られないのでご理解いただきたい旨報告とお願い。

②本年度は役員改選の年であり、本日常務委員会に提出するH26年度役員改正案の審議をお願いしたい。新役員の正式決定は総会での承認後となるが、新役員予定の方は、4月1日より実質的活動は開始して欲しい旨依頼。

2. 審議事項

①H26年度組織図－佐野総務委員長より組織図案提示、「学生指導小委員会」は実質的には青年部内の組織であるので組織図から外すこととした。変更以外はH26年度組織図案にて承認。

②H26年度役員案－佐野総務委員長より役員案提示（承認）

③H26年度事業計画案－佐野総務委員長より提示。各委員会でも内容チェックの上、訂正・変更ある場合は申し出てほしい旨依頼。

3. 委員会報告

①会計（市川）：H25年度会費未納者10名、内3名が除籍対象者である旨報告。

H26年度各委員会ごとの事業費－下記の通り申告あり。

自然保護委員会：¥60,000、第1山行グループ：¥30,000、支部友会：¥70,000、支部報編集委員会：¥30,000、ボランティア委員会：¥80,000、図書委員会：¥10,000、遭難対策委員会：¥50,000、総務委員会：¥50,000、登山教室委員会：¥200,000、青年部：¥100,000

②岳連（星）：東海支部は団体会員としては加入しているが、支部員/支部友会員の個人会員は‘0’となっている状況であるので、今後の付き合い方を再考する必要がある旨報告。

③支部友委員会（酒井）：配布された3月3日開催の委員会議事録をもとに2月・3月の山行状況、支部友ミーティングの予定などにつき報告。

④山行委員会 第1山行グループ（石田）：配布された資料を基にH25年度山行実施状況を報告。H25年度山行に参加した支部員・支部友会員は100名ほど、参加者数は個人山行が増えていることもあり減少傾向とのこと。山行

リーダーに関しては22名に委嘱してあったが、山行を実施したのは14名にとどまった。5～10年先を見据えた長期的な視野に立って、若手山行委員及び山行リーダーを補充していきたいと報告。

H26年度については、14名にリーダーを委嘱、月3山の山行が催行できるよう、1人当たり4山を計画して欲しい旨依頼した旨報告。

又、支部主催で、自立した山行の啓蒙を狙った新人に対するオリエンテーション開催を常務委員会に提案－当提案を受け、検討グループを作ることとなった。

⑤猿投の森づくりの会（和田）：4月に観桜会を開催する予定なので、沢山の方に来てほしい旨依頼。また、3月20日に広島で開催された“森づくり連絡協議会”に出席した折、広島支部のルームを訪問、感銘を受けた旨報告。

⑥東海 youth（山田）：配布された資料を基に3月及び2013年度の活動を報告、2014年の活動計画、及び2014年度の組織図を説明。

⑦支部報（星）：支部報No.137を3月28日に発送予定。今回表紙をカラーにしてみたので、意見を聞かせてほしいとのこと。

⑧青年部（高橋）：上高地の山研で6月後半青年部ミーティングを開催予定（本部主催で、本部青年部10名、東海支部10名、他支部10名参加予定）とのこと。

H26年度は副委員長を3人選任し、交代で常務委員会に出席させる予定である旨報告。

⑨登山教室（鈴木）：下記報告あり。

※H26年前半の活動計画を3月末までに立案予定。

※女性指導員－4名減少、但し2名の補充確保。

※登山教室の指導料－H25年度は約110万円支部会計に納入できる旨報告。

※H25年度の4教室参加者は延べ915名（内584名現地山行参加）であった。

※バス料金－ワークシステムから料金改定の見積入手。それによると基本料金1000円up。但し平日の追加料金の値下げもあるので、実質値上げはそれほどではない見通し。

バス代での赤字を防ぐため、中日登山教室及び山ガール講座のバス代を朝日登山教室と同じ一人当たり5000円に値上げすることとした。バス代の赤字を防ぐため、山ガール教室の山行に東海ユース、中日の山行に支部・支部友に参

加の声掛けをすることを検討中。

※山ガール講座(中日) - 10月開講よりボーイも参加できるようにするため呼称変更の予定。

⑩自然保護委員会(南川): 配布された資料に基づき、H26年度の事業予定報告。

⑪図書委員会(石田):

* 図書の閲覧が増えているのはありがたいが元の所に返却されていないので、きちんと元の所に戻すようにしてほしい旨依頼 - 問題解消にはどの場所から図書を引き出したのか判りやすくする必要があり、複数の委員より指摘あり、配置の仕方等見直しをすることとなった。

⑫ボランティア委員会(前田): 配布された3月委員会報告をもとに、準備中の行事の進捗を報告。

⑬写真展実行委員会(井上): 第14回写真展の出展者は53名、作品数は78点になった旨報告。

⑭インドヒマラヤ登山計画(星):

第12次インドヒマラヤ登山計画書が配布され検討の要請があったが、是非の判断には、計画内容の詳細な検討が必要なので、「預かり」とすることとなった。

⑮夏山フェスタ(毛利): チラシ配布と同時に、準備状況の報告。

出席者: 中世古、野呂、箕浦、小川、山田、市川、石田、星、天野、酒井、高橋、前田、井上、

【2014年4月常務委員会】

日時: 4月23日(水) 19時00分~21時00分
1. 小川支部長挨拶

①4月16日に退院、近日中に現役復帰。不在時の配慮に感謝する。

②新年度がスタートし、今年度の課題として「会員の増強」「若手会員確保」「自立した登山者育成」「山岳事故防止」に取り組んで貰いたい。自立した登山者育成については、今後、検討会を立ち上げ検討してほしい。

③来週からゴールデンウィークが始まるが、東海支部では過去にこの時期に何人かが遭難している。事故の無いよう登山を楽しんでほしい。

2. 委員会報告

①会計(市川): 支部報 No. 137 送付の際に会費請求を同封したとの報告。

②岳連(市川): 4月19日に総会。H25年度の決算は370万円、遭難対策予算400万円、北谷小屋修繕費500万円。加盟団体は、約60位、高校は37校。今年度の行事は5/18「読図講習会」於 大高緑地

③支部友委員会(酒井): 配布された4月の委員会議事録をもとに山行、ミーティングの報告。
* 4/9 第5回支部友ミーティング、山田副支部長による「セルフレスキュー」は26名の参加。実体験によるロープワークなど好評であった。

* 会員数は4月に2名加入、現在45名。

④山行委員会(石田): 配布された議事録・計画などをもとに報告。

* 山行リーダー後継者作り、自立型登山者育成については、支部全体で取り組んでほしい。新たにできる「検討会」に委ねたいとのこと。
* 支部山行の下山連絡先を現在9名の委員が担っているが、負担になっているので常務委員の方にも下山連絡先の担当を担ってほしいとの依頼。(この項については議論あり、保留)

⑤亀の会委員会(柴田): 配布されたH25年度報告ならびにH26年度事業計画を報告。会員は、2/28現在55人、その内、サポーターは17人。

⑥猿投の森づくりの会(和田): 4/12の観桜会に48名参加。4/15東大演習林で最終植樹祭。(55年続いたが今回で終了)5/17総会15時~17時予定。

⑦東海Youth(山田): 配布された活動報告をもとに報告。1名入会で現在21名。5月に雪上訓練(梅池付近)を予定している。

⑧支部報編集委員会(星): 配布された資料、「支部報 No. 138 について」をもとに報告。
* 表紙を今後もカラー印刷にしたい、裏の広告もカラー印刷となる。費用は3万ほどアップ。

⑨青年部(高橋): H26年度組織図並びに4月議事録を配布し報告。新委員長に梶浦昌巳氏。日中韓学生交流登山隊は、東京から依頼があり派遣する予定。

⑩登山教室委員会(鈴木): 配布された活動報告をもとに報告。

* 中日現地学習は、受講生が少ないので賛助会員を支部・支部友から募る案を検討中。

* NHKは今年より座学を月1回にする。

* 夏山フェスタでは「山のよろず相談コーナー」を担当。現在受付など検討中。

⑪自然保護委員会(南川): 配布された資料を

もとに報告。

*第18回森の勉強会に是非ご参加を。

⑫図書委員会(石田):特になし。高橋氏より「クムスカングル」の本を贈呈することのこと。

⑬海外登山委員会(星):配布された「第12次インドヒマラヤ登山隊2014」について報告。
*計画書の細部にわたり修正・補足などおこなわれ、「報告書を半年以内に提出すること」、「副隊長の肩書でなく登攀に」など審議・検討されJAC 東海支部主催事業となった。

⑭ボランティア委員会(前田):配布された資料をもとに報告。

*秋のブラインド山行はバスの関係も有るが、支部行事との関連を考慮し11/16にしたい。

⑮遭難対策委員会(野呂):電話での届け出は順調であるが、まだ届け出をしていない人がいる。

*徹底して浸透させるためには、支部報に掲載・チラシ配布など対策を検討せねばならない。

⑯写真展実行委員会(井上):配布された開催結果資料をもとに報告。延べ来場者数は2243名。

*皇太子さまからも、「私の写真を皆さんが見て楽しんでくれ嬉しく思う」とのコメントを頂いた。

⑰森の音楽祭実行委員会(毛利):今年の雨の際の会場の確保が出来たことを報告。

⑱総務委員会(佐野):

*「山の日」が8/11に決定。施行は8.1.1~

⑲夏山フェスタ(毛利):

*新しいチラシが届いたので、広く配布をお願いしたい。

3. 審議検討事項

総会の資料配布:平成25年度事業・決算報告、平成26年度事業計画(案)・予算(案)・組織図・役員一覧を提示、検討する。

*「平成26年度予算」収入にH26から新入支部員に対する本部からの「報奨金」の項目を。支出に「森の音楽祭」の項目を挙げる。

*修正個所があれば早めに総務委員長まで提出してほしい。

出席者: 中世古、野呂、小川、山田、柴田、市川、石田、星、酒井、高橋、前田、井上、佐野、和田、南川、鈴木、梶浦、毛利

新メンバー紹介 鈴木慎吾、梶浦昌巳各委員、加藤守彦委員欠席

【2014年5月常務委員会】

日時:5月28日(水)19時00分~21時15分

1. 小川支部長挨拶

①東海支部の今年の重点目標は、支部総会でも述べたとおり、会員の増強、若年会員の開拓、自立した登山家の育成並びに遭難防止としたので、皆さんにはその目標の達成にご尽力願いたい。

②御在所山の小屋譲渡の件一野呂さんを通じて、小屋を引き受けてもらえるところは無いかとの相談があるので、この扱いについて検討委員会を設置し検討することとしたい。詳しくは総務委員長から。

2. 委員会報告

①会計(市川):H26年度の各委員会費用を本日お渡しした所であるが、精算にあたっては領収書の提出並びに、領収書に用途の中身が分かる記載をお願いしたい旨要請あり。

②支部友委員会(酒井):配布された5月7日開催の委員会議事録をもとに4月・5月の山行状況、支部友ミーティングの結果及び次回開催予定の第6回支部友ミーティングなどについて報告。

③山行委員会(石田):月例山行の実施状況報告と同時に、7月と8月の山行の計画進捗状況報告。また、5月21日開催の山行会議議事録を配布し、H26年度の山行委員会の進め方などにつき議論をした旨報告。

④亀の会(加藤):5月月例山行は33名の参加を得て、今年80歳になる方3名の傘寿お祝い登山を兼ね、丹波の長老ヶ岳に登った旨報告。亀の会の会員は75歳以上が18人、70歳以上が34人を数え、AKB70と称している(ちなみに、これは明るく、活発な、バーさんの略称)とのこと。また、猿投の森づくりの会と猿投山の遊歩道マップ作製に取り組んでいると報告。6月月例山行は6月19日に美ヶ原・霧ヶ峰を予定しているとのこと。高速道路通行料の変更に伴い、マイカー運転での山行の負担が増えているので、マイカー利用の規定を見直す必要があるのではないかと指摘。

⑤猿投の森づくりの会(和田):5月現在の個人会員数98名、法人会員4社と報告。配布された報告書にて4月~5月の定例作業の参加者及び作業内容及びイベント実施状況他報告。総会開催は、前もって常務委員会にて承認を受けることになっていたが、常務委員会の承認を取る

ことを失念していたので陳謝するとの発言。
また猿投の森の会則によると会の活動範囲は
県有林のみに限定されているので、規程を改正
し山桜フィールドを含め他の場所での活動も
出来るよう規程の改正をする意向である旨報
告あり。

⑥支部報編集委員会(星):配布された資料に
基づき138号の原稿の入手状況の説明。

Informationコーナーの追加記事の件につい
ては、毛利委員より、森の音楽祭案内記事を入
れたい旨発言あり。加藤委員より、支部報に『談
話室コーナー』を作ってはどうかとの提案有。

⑦東海youth : 山田委員長欠席の為、5月活
動報告のみ配布された。

⑧登山教室委員会:鈴木委員長欠席の為、5
月度委員会報告のみ配布された。

⑨自然保護委員会(南川):第18回森の勉強会
に東大演習林の蔵治さんに講演を依頼した旨報
告。また、自然観察会三河支部の石川氏より、
中埜酒造発行の雑誌に愛知の山のトレッキング
の記事を載せる計画があり、日本山岳会東海
支部の協力依頼ある。依頼の内容は、トレッキ
ングを予定した山の案内人の派遣とのこと。
当雑誌の発行部数は約2万部約136ページで、小
売¥850であるとのこと。山岳会のPRにもなるの
で協力してはどうかとの提案 — 承認。

対象の山は「本宮山」「三瀬明神」「神石山」「東
谷山」とのこと。長坂支部員に相談し案内人の
人選をすることとなった。

⑩ボランティア委員会(前田):配布された5月
度報告をもとに、5月11日の「春のブラインド
登山」の実施内容の報告、並びに11月に開催
予定のブラインド登山の際に全国の支部に「全
国ボランティア登山情報交換会」開催の案内を
出すことにした旨報告と同時に詳細の説明。

⑪青年部: 梶浦委員長欠席の為、佐野総務
委員長より、本部から来ている9月と1月開催予
定の第2回全国安全登山実技指導講習会の案内
を配布と同時に内容説明。

⑫総務委員会(佐野):

※下記2つの検討組織の立ち上げることにした
旨報告と同時に資料配布。

1) 支部友会の課題及び支部員の山行に関する
諸問題についての検討。

2) 御在所山の家(旧近鉄山の家)の譲渡申し
出にたいする対応の検討。

※支部ガイドに掲載予定の委員会メンバーお
よびルームカレンダーのデーターを各委員長
に送るので1週間以内に加筆・修正のうえ返信
願いたい旨依頼。

⑬森の音楽祭(毛利):本年度は参加費(300
円)を徴収することとしたこと、東海学園交響
楽団の演奏曲目はチャイコフスキー作曲の交
響曲第5番になった旨報告。

⑭夏山フェスタ(毛利):6月7日・8日に開催
される夏山フェスタには青年部から25名、登山
教室から13名のスタッフを派遣して頂くこと
になった旨報告と同時に、6日午後6時から前夜
祭としてアルプホルンの演奏と青年部のメン
バーによる懸垂下降のアトラクションが有る
ので時間のある方はお越し願いたい旨依頼。

出席者:中世古、小川、柴田、佐野、和田、市
川、石田、星、酒井、南川、前田、加藤、毛利
欠席 : 尾上、箕浦、野呂、山田、高橋、鈴
木、梶浦、井上

総務委員会 毛利邦男 記

ル ー ム 日 誌

— 3 月 —
3日(月) 支部友委員会
4日(火) 県岳連/支部報編集会議
4日(水) TNCC/山行打ち合わせ
6日(木) 青年部
7日(金) 古道塩の道
10日(月) 登山教室委員会/支部報編集会議
13日(木) 自然保護委員会
17日(月) 図書委員会/支部報編集会議
18日(火) ボランティア委員会/登山教室
19日(水) 山行委員会第1山行グループ
20日(木) 東海学生連盟
24日(月) 山行リーダー会議
25日(火) 猿投の森
26日(水) 常務委員会
28日(金) 支部報発送作業
— 4 月 —
1日(火) 県岳連/山行打ち合わせ
2日(水) TNCC/青年部
4日(金) 古道塩の道
7日(月) 会計打ち合わせ/支部友委員会
9日(水) 支部友ミーティング
10日(木) 自然保護委員会/会計監査
11日(金) 森の音楽祭

- 14日(月) 登山教室委員会/支部報編集会議
 15日(火) ボランティア委員会
 16日(水) 山行委員会第1山行G/青年部
 17日(木) 東海学生連盟/総務委員会
 19日(土) 東海ユース/インドヒマラヤ打ち合わせ
 21日(月) 評議委員会
 22日(火) 図書委員会/猿投の森
 23日(水) 常務委員会
 25日(金) 亀の会運営会議
 26日(土) HAT-J 総会

5月

- 1日(木) 青年部/写真展委員会
 2日(金) 古道塩の道
 7日(月) 支部友委員会/TNCC
 12日(月) 登山教室委員会
 13日(火) 県岳連
 15日(木) 東海学生連盟
 17日(土) 支部総会/猿投の森づくりの会総会
 19日(月) 図書委員会
 20日(火) ボランティア委員会
 21日(水) 山行委員会第一山行G/総務委員会
 27日(火) 猿投の森運営委員会
 28日(水) 常務委員会

会員異動

入会:

- 浅野 舜三(15471) 大府市柞山町 2-208
 0562-47-7486
 川島 節子(15472) 津島市神守町字持竿 39-1
 0567-69-5620
 村上久美子(15485) 名古屋市中村区鴨付町
 2-13 052-412-1697
 杉崎 正美(15516) 名古屋南区明治 1-5-1
 052-691-0709
 鈴木 芳江(15529) 桑名市福島 969-1-1-1306
 0594-23-5939

(復活)

- 酒井 博一(12261) 名古屋市名東区社台
 3-20-202 052-771-6584

退会:

- 梅村 昭治(14364) 石川 耕春(11631)
 青戸慎太郎(12793) 田辺 元祥(12848)
 久世 勝己(13005) 神野 洋通(15005)
 櫻井 靖彦(14725) 吉田 力(9796)

総務委員会 酒井 広 記

INFORMATION

【森の音楽祭実行委員会からのお知らせ】

第6回森の音楽祭2014を下記要領にて開催します。皆さんの参加をお待ちしています。
 内容:猿投の森特設会場入口でアルプホルンの演奏でお迎えした後、東海学園交響樂團によるチャイコフスキー作曲 交響曲第5番の演奏を楽しんで頂きます。

昼食後は希望者による森の観察会(人数制限有-先着150名)が開かれます。

開催日:10月25日(土)

場所:県有林山路の森(猿投の森)特設会場(雨天の場合は瀬戸蔵“つばきホール”にてアルプホルンと交響樂團の演奏のみ開催)

参加費:300円

集合場所・時間:

名鉄瀬戸線 尾張瀬戸駅前 午前9時
 瀬戸駅から猿投の森入口までは無料バスでの送迎、バス下車後、音楽祭会場まで徒歩(約2km)

申込方法:ハガキ・ファックス(東海支部森

の音楽祭実行委員会宛)又は、e-mail(メールアドレス:sanagenomori@gmail.com)
 問合せ先:森の音楽祭実行委員会 毛利邦男

【自然保護委員会からのお知らせ】

今年も恒例の森の勉強会が計画されました。詳細は参加申し込み者に別途ご案内します。

・第18回森の勉強会(3支部共催)
 東海支部主幹、関西支部、京滋支部

日時:11月8日(土)~9日(日)

場所:猿投の森・東大演習林

参加費:18,000円(交通費は各自)

予定人員 30名(先着申し込み順)

締切日:10月10日

・自然保護全国集会(広島)

日時:11月22日(土)~23日(日)

問い合わせ及び申し込み先 南川陸夫

TEL&FAX 0569-42-5382

E-mail:r-minami@ktf.biglobe.ne.jp

自然保護委員会 南川陸夫

【ボランティア委員会からのお知らせ】

○全国ボランティア登山(障がい者支援登山)情報交換会開催のご案内

ボランティア委員会では、本年度初の試みとして、下記の内容で全国ボランティア登山(障がい者支援登山)情報交換会を東海支部の行事として開催いたします。

○タイトル 全国ボランティア登山(障害者支援登山)情報交換会

○主旨 視覚障がい者支援登山(ブラインド登山)を広く知っていただき、全国に普及するきっかけになればという思いから、他支部の方々と、ブラインド登山以外のボランティアでの各種支援登山も含め情報交換会を行う。

○時期 平成26年11月8・9の土日、又は、15・16日の土日(8月1日には確定いたします。)

○場所 東海支部ルーム及び東海地方の山(場所未定)

○内容

第一日目(土)15:30 東海支部ルーム集合

16:00 情報交換会 於・東海支部ルーム

第一部・各支部支援登山実例報告

第二部・視覚障がい者との登山について

19:00 懇親会 於・未定

第二日目(日)8:00 JR金山駅集合の後、バスで東海支部の視覚障がい者支援登山と一緒に体験していただく。

17:00 JR金山駅解散

○費用 参加者負担分:名古屋までの往復交通費、宿泊費、懇親会費等は実費負担。

支援登山参加費:バス代込みで2,000円位

○告知方法 「山」への掲載、各支部長宛へのご案内、全国支部長会議での発表。

詳細に関しましては、後日発表いたします。

ボランティア委員会 前田隆久

【総務委員会からのお知らせ】

映画「ビヨンド・ザ・エッジ」鑑賞券について 映画配給会社のご厚意により表記の映画を特別価格で鑑賞いただけます。詳しくは同封のパンフレットをご覧ください。

ネパール音楽コンサートのご案内

『ヒマラヤの風 HIMALAYAN BREEZE』

主催:ヒマラヤの風実行委員会

後援:JAC 東海支部 ネパール文化研究会

日時:9月21日(日)

場所:OMCビル 4F 講堂

時間:15時30分 受付 開演16時

料金:前売り2500円 当日3000円

出演:パンチャ・ラマ(バンスリ)、サラバン・ラマ(タブラ)

内容:パンチャ・ラマは今年で来日20周年です。さらにパワーアップしたラマ兄弟の演奏を是非お聴き下さい。

お問合せ・チケット:(有)P.S. Music
03-3425-3469 及びネパール文化研究会

梶川あゆみ 090-9949-2053

mayaluayumi@i.softbank.jp

中部山岳国立公園指定80周年記念事業 〈企画展〉のお知らせ

- 企画展名:「氷壁」を越えて
ーナイロンザイル事件の真実と石岡繁雄の生涯ー
- 開催場所:上高地インフォメーションセンター2階
- 展示期間:2014年6月20日~8月31日
- 展示時間:8時30分~16時30分
- 主催:石岡繁雄の志を伝える会
- 協賛:一般財団法人自然公園財団上高地支部
- 協力:環境省松本自然環境事務所、名古屋大学博物館、名古屋大学大学文書資料室、澤田栄介、石原國利、NITE(独立行政法人製品評価技術基盤機構)、朝日新聞社、中日新聞社

登山家 石岡繁雄(東海支部創設者、初代副支部長)が愛したこの地で、石岡が遺した足跡の一端をご覧いただければ、この上ない喜びです。

名古屋大学の企画展に続く、今回の展示に際しては同大学で行われました展示パネル等を抜粋使用させていただきます、上高地に相応しい内容を盛り込んで展示させていただきます。

是非、上高地ご訪問時にはお立ち寄りください。

企画展代表者 石岡あづみ

編集後記

今年も、無事総会を終え、新たな委員会が名を連ねている。また、委員の名簿を見ると、委員の若返りも確実に進んでいることも喜ばしい。ところで、「山の日」の制定が決まった。支部設立の原点は、海外の山を目指すエネルギーであった。この力を絶やさぬ組織づくりを今年も願いたい。

星 一男

海外トレッキングのパイオニア!



世界の山旅を手がけて45年

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

“山仲間オリジナルツアーを企画しませんか?”
説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 052-581-3211
〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-2 (第3千福ビル3階) www.alpine-tour.com



ATLAS TREK

ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。
観光庁長官登録旅行業第1167号 / (社) 日本旅行業協会正会員

株式会社アトラストレック

名古屋サービスデスク TEL: 052-788-2422
(東京本社転送電話)

【東京本社】〒180-0008 東京都新宿区三栄町25番地 三栄ハウス202
TEL: 03-3341-0030 FAX: 03-3341-9200 E-Mail: info@atlastrek.co.jp
ホームページ <http://www.atlastrek.co.jp/>

SINCE 1975
mont-bell

ウェア・ギアに
遊び心も揃えて
お待ちしております!

アウトドア用品は、
機能的なアイテムが豊富に揃う
「モンベルストア」へ。



- | | |
|-----------------------|---|
| 名古屋店 Outlet | 愛知県名古屋市中区栄3-18-1
ナディアパークフロア 6階 |
| 長久手店 | 愛知県長久手市片平1-901 |
| 名古屋みなと店 Outlet | 愛知県名古屋市港区品川町2-1-6
イオンモール名古屋みなと 3階 |
| 各務原店 | 岐阜県各務原市那加堂場町3-8
イオンモール各務原 2階 |
| 長島店 Outlet | 三重県桑名市長島町浦安368
三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階 |
| 鈴鹿店 | 三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2
イオンモール鈴鹿 1階 |
| 新静岡店 | 静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1
新静岡セノバ 4階 |

Outlet アイコンのある店舗では、ファクトリーアウトレット商品も取り扱っています。

モンベル・カスタマー・サービス
☎0088-22-0031 / TEL.06-6536-5740 www.montbell.jp
※フリーコールは携帯・IP電話からご利用いただけません。

公官庁の許認可申請・権利義務・事実証明の書類作成

西山行政書士事務所

〒460-0002
名古屋市中区丸の内3丁目1523番地 大栄ビル204号室
TEL : 052-961-6506
FAX : 052-961-6507
URL : <http://www.nygs-office.com/>
facebook : <http://www.facebook.com/nygs.office>

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒453-0801 名古屋市中村区太閤四丁目8番3号
TEL (052) 451-6656 FAX (052) 451-6657
E-mail : ta@asai-rbs.co.jp

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号



一般社団法人 日本自動車運行管理協会
一般社団法人 中部地区自動車管理業協会

- ・一般貸切旅客事業
- ・車両運行管理事業
- ・愛知県知事登録旅行業
- ・労働者派遣業
- ・ビル清掃管理事業
- ・介護支援事業

〒465-0021 名古屋市長東区猪子石3丁目113番地
TEL 052 (779) 8777(代) FAX 052 (779) 0031
<http://www.work-system.co.jp/>